

## A プリント（主訴、現病歴、既往歴、身体所見、検査所見）

NEJM 勉強会 2016 年度 第 1 回 2016 年 4 月 21 日 A プリント 担当：澤井大和<sup>ゆたか</sup>

### Case 3-2016: A 9-Year-Old Girl with Intermittent Abdominal Pain

(N Engl J Med 2016;374:373-82)

【年齢・性別】9 歳女兒

【主訴】慢性の便秘、再発性の腹痛、非胆汁性嘔吐

【現病歴】

4 歳になってから腹痛が時折起こるようになった。腹痛が起こる時期は年に数回あり、便秘や非血性・非胆汁性嘔吐が伴うこともあった。発熱や下痢はなかった。ポリエチレングリコールの投与によって症状は改善した。

8 歳の時、誘因なく胸部左側に突然鋭い痛みが頻脈と嘔気を伴って生じた。心拍数は 150bpm だが、体温やその他の身体所見、胸部レントゲン、心電図は正常であった。2 ヶ月後の心機能検査も正常であった。

続く 18 ヶ月間で腹痛の頻度は週 3-4 回に増加し、週末よりも学校にいる時に起こることが多かった。痛みは上腹部に起こり、嘔吐を伴った。ポリエチレングリコールとオメプラゾールが投与され、内服直後は便秘が軽減した。

《救急外来受診時》9 歳 4 ヶ月

＜来院時現症＞ 鋭く激しい腹痛により来院。バイタル安定。

[身体所見] 腹部にびまん性の圧痛。左下腹部に便に一致した膨隆。筋性防御・反跳痛なし。

＜経過＞ 下剤で便秘は収まったが、腹痛はその後も断続的に再発。腹痛は嘔吐後に改善。

《小児科受診時》 救急外来受診の 1 ヶ月後～

＜来院時現症＞ バイタル安定。身長 130.3cm (下から 19%)、体重 28.6kg (下から 28%)。

＜経過＞ オメプラゾールを開始し 2 ヶ月間内服した。上腹部痛がほぼ毎週再発するようになり嘔吐も伴った。ストレスや排便と無関係に見えた。患者は 1 日 1～2 回有形で粘液を含み、血液のない排便をしていた。夜間の痛みや頭痛、朝方の嘔気はない。

[身体所見] 剣状突起のすぐ下方に圧痛を認めた。腹部は柔らかく圧痛なし。

その後 3 ヶ月間、腹痛の頻度は増加し、学校でも家でも顔は蒼白になり、発汗し、床に倒れる「疼痛発作」が起こるようになった。症状は屈んで腹部を押さえることでやや改善した。中断していたオメプラゾールとポリエチレングリコールによる治療を再開した。

## A プリント（主訴、現病歴、既往歴、身体所見、検査所見）

さらに4ヶ月後（9歳11ヶ月）、激しい腹痛が腹部左側に生じ、背部に放散していた。腹部は柔らかく圧痛がなかった。バイオフィードバックとリラクゼーションのため、メンタルヘルス・コンサルタントに紹介された。

【既往歴】喘息、肺炎（2歳）

【発達歴】成長は正常。

【服薬歴】（【現病歴】中の薬剤以外、記載なし） 【アレルギー歴】既知のものはない

【生活・社会歴】食事は食物繊維が少なめ。両親と暮らし、学校の成績良好。南米の家系。

【渡航歴】8歳の時に南米に渡航。

【家族歴】父：胃食道逆流症 姉妹：甲状腺機能亢進症 母方の祖母・おば：偏頭痛  
セリアック病、クローン病、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群の家族歴なし

※検査所見は進行の関係上、省略しています

以上の経過の中で患者の両親が希望したため、診断的検査が行われた。